

南大西洋中央水の湧昇は才1次水温躍層の破壊を起し、魚類鉛直回遊の障壁をとり除く。安定期および表層湧昇期には才1水温躍層下にプランクトン極大を示す。

(3) A. R. Longhurst : A Survey of Fish Resources of the Eastern Gulf of Guinea (J. d. cons. XXIX 3, 1965, 302-333) ギネア湾東部

1962/63 底魚(上層グチ、下層タイ類)、イワシ類は大して重要でないがマグロの潜在資源は大きい。ダホメイ〜カメルーン陸棚底魚年産2万トンぐらいの最大ポテンシャル。東へ向うほど魚体型は小さくなる。

(4) A. R. Longhurst : Coastal Oceanography of Western Nigeria Bull. d. l' Inst. Français d' Afrigue, Noire Tome XXVI, ser. A. no. 2. 1964.

雨降りはじめ日射減ると表層水温塩分は低下し、8、9月が極小となる。

#### 4 西アフリカ漁場経験談

和田 光太(日魯漁業)

シエラレオンヌ〜アンゴラのサワラ漁場は、ラスパルマスを根拠として $20^{\circ}$ 〜 $25.5^{\circ}$ N附近を操業している。日本の約30隻の大型船(300〜2,000トン)で行なわれており、日本のはかにスペイン船(小型)、ポルトガル、イタリーも参加しており、ソ連船の漁場はこれとちがいで深所にあつて、スタートローラーの1,500〜1,000トン級4〜5隻操業している。サワラ漁場は幅 $5^{\circ}$ で北部 $24^{\circ}$ 〜 $25^{\circ}$ Nモンゴイカ、タコは、南部 $20^{\circ}$ N附近(プランカ岬タコ漁場、年末〜3、4月)。浅湾や産卵群のタコばかりで時期によりイカがはいる。その間に現地船が操業しておりヤリイカがとれる。これは南北にかなり大きく移動する。春に地域的にはかなり長期間にわたつて産卵し浅所に卵が多量に発見される。

昭和37年前よりタイ類の体長が小さくなつて、モンゴイカ、タコも減つたように見える。以西底曳で急減したような様子がみられる。これを漁法漁業技術でカバーしている。アフリカの海底は荒くて下の網を曳けないような所が多い。北から曳くとかからぬが、南から曳くとかかるといつた案配である。北からのシオが年中強い。北寄りの風で、湧昇が $19^{\circ}$ N附近 Cape Blanca 方面盛んで、最低 $15^{\circ}$ Cぐらいが観測された。9月から10月〜1月がモンゴイカの時季で3、4月はタコ、イカ漁が下火になり、アジサバ漁にかわる。今後資料を整備する必要があり、その具体的方法が問題である。漁獲深度は10m〜70、80m深まで曳いている。アジサバ、イワシの類は周年とれる。コノシロ、ニシン類は浅所におり、大陸棚縁の急傾斜する附近にタイなど赤物がある。

福井徹(日本水産):西アフリカの沿岸国のナシヨナリズム、食料、人種、ソ連の進出、日本船の話、風土病、食事など1年4ヶ月にわたる最近の見聞体験知識を紹介。八丈島からニュージラントに亘るほどの大きな大陸に基地はラスパルマス、ダカル、フリータウン、モンロヴィア、ガーナなどしかない。南阿連邦はアフリカ先進国の工業(エンジン、化繊等)をみるが漁業

先進国ではない。アンゴラは沿岸資源豊富でフィッシュミール生産世界3~4位である。巾着網の15~30トン漁船でタイ類などを目的に底まで旋く。地曳ではタイ類がとれる。「赤物」多く魚はいるが流通、資本全くなく、伸び悩みである。南西アフリカ(旧ドイツ領)、南アケープタウン沖にかけてマイワシ、メルルーサ、ロブスターの漁場がある。北側のタイと南側のタイ(レンコに似た綺麗なタイ)は明らかに種類がちがう。ビグミー沖は動物の骨が多くて網が曳けない。モリタニア(スペイン領)サワラ沖をカリナー海流が南下しており、それに続いて、シエラレオン、リベリア、アイボリーコースト(アビジャン港)、ガーナ(ボアン・ノアル港40~50トン船)、ナイゼリア(人口3000万人、首都ラゴス)にわたり南東~東に向うギネア海流域で、5、6月~7、8月 イワシ類(*Sardinella aurita* = African herring という)が盛んにとれる。カヌーを機動化し、浮旋刺網で、2~3カ月間に2万4000トンも水揚している。闇夜に出漁し、満月には休漁するが。夜光虫で魚群の所在を見て網を引く。旋いたら水中へ飛びこんで魚をおいこむ。網に充分刺さると網を海岸へひつばつて来て浜へ曳き上げる。この辺の水温はかなり高い。西アフリカ諸国は未だ沿岸漁業で、川崎船程度のカヌーなどの地方的漁業である。ナイゼリアやカメルーンは畜産だけでは蛋白質不足で魚類蛋白質が必要だが、アンゴラや南阿連邦は水産物に依存しなくても牧畜で充分で牛肉を主に消費している。塩乾魚、(タラ、ニベ、タイなど)缶詰ははいつており、冷凍魚の消費もある。赤道熱帯地帯(雨季9月頃)のマラリア地帯では大へん蛋白質に不足している。ソ連は Cap Blanco 方面に大船団で操業しており、親ソの社会主義国ガーナ、ナイゼリアの方にも出漁しておる。ガーナには1トン45ポンド=4.5万円位で入れており、ナイゼリアではそれより安価である。南阿沖母船底曳トロールは座礁するほど近岸も操業するが、メルルーサは700~800m深の深みを曳く。56月は天候が不良で特に Benguela 以南はよくシケる。港湾ラスパルマスには長い防波堤が造られており、ケープタウンにも強い西風を防ぐりつばな防波堤ができています。英国領は先づ良い港を造つており、港湾設備を見るとその国がわかる。ラゴス(Lagoonにある。浅沼地を切り開いて造つた港)、ガーナのテーマは完全な人工港であり、砂地の内に海岸線を切り開いて造つた港である。

## 5 総合討論

真田会長：底魚漁場資源の解明が必要である。自分も大正末年以来トロール船に乗っていたが最初は資源としての関心もなくやつていた。戦後1000トントロール船を造つてカレイ漁をやる計画を立てて行なつたが、一週間北洋で何処でもとれなかつた。カンで北洋へ行つたら何処でも獲れると云う感じをもつていたが、底魚資源は予想外であつた。それでアフリカ底魚漁場でも最初反対したのは以前の経験からであつた。それがこんなに大きい漁業になつた。現在状況では仲々本当の正確な資料を集めるのはむづかしいものがある。カツオ、マグロとトロールも含めた海洋漁業全体の資源問題が狙上りする日も遠くない。

戦後西豪州沖のトロール漁場へも行つた。アフリカトロールも日水ではギリシアあたりから出